

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	42	学校名	県立神栖高等学校					課程	全日制		学校長名		園部 晃嗣				
教頭名	岩瀬 美江										事務（室）長名		渡邊 信尚				
教職員数	教諭	26	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	2	計	43
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		75	67	65	82	59	72			199	221	12				

2 目指す学校像

「一人一人が自立し、輝きに満ちた学校」、「社会に貢献できる有為な人材の育成」	
1	「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。
2	確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒ひとりひとりに明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。
3	自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。
4	特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。
5	生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。

3 三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	●「一人一人が自立し、輝きに満ちた学校」、「社会に貢献できる有為な人材の育成」 ① 個人の目標を定め、協働的に粘り強く挑戦する。 ② 地域や社会における「解のない問い」に対峙できる力をつける。 ③ 様々な「自立」に向け、主体的、意欲的に行動する。 ④ 心身ともに健康で、情操豊かで他人を思いやる。 ⑤ 地元を愛し、地域を知り、個人や社会に「貢献」できる力をつける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	●「学ぶ喜びを感じながら、主体的・協働的・探究的・社会的に学びを深める」 (1) 目標や進路希望に応じた教育課程。 1 年次→中学校での学習を基礎に、全生徒がフラットな学級編成で普通科での課程を修得。

別紙様式 1 (高)

	2 年次・3 年次→学習成績並びに進路希望に応じ、各自に適切な教育課程の授業を選択。 (2) 県指定事業「チャレンジ・プロジェクト」の実施 (重点校) 1 探究活動→地域(神栖地域)や社会の課題に対し、各教科・科目で主体的・対話的で深い学びの実現を目指した「総合的な探究の時間」を軸に探究活動を進める。 2 グローバル研修→広く世界に目を向けて、文化理解・交流・語学・地域理解を進める。 3 自立活動→次世代につなぐ(赤ちゃんふれあい体験)、選挙講座、消費者教育等。 4 キャリア教育→地元産業について学ぶ(合同企業研究会、インターンシップ等)、進学希望校の探究、保護者の学び(PTA 研修)、資格取得の奨励。 (3) 特に力をいれる 3 つの進路実現の推進 1 高卒公務員(神栖市役所、消防署、警察官、自衛隊等)試験合格 2 小学校教員養成課程四年制大学への進学 3 看護医療系専門学校及び四年制大学への進学 (4) ICT の活用 高度情報化社会に対応できるよう、情報活用能力を育成し、ICT 環境を整備しつつ、新技術を活用した様々な教育活動を実践し、実体験を通じた情報モラルの向上を図る。 (5) 特別な配慮を必要とする生徒への対応 生徒、保護者等からの教育ニーズ等を把握した上で、個々の生徒の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し、できる限りきめ細かく適切な指導と必要な支援を行う。 (6) 多様な評価の実施 生徒のよい点や変容等を評価するため、各教科・科目で評価の場面や方法を工夫し、外部の試験・評価等も参考として生徒の実力を診断し、それぞれの個に応じた進路実現に活かす。 (7) 教職員の継続的で充実した研修 教職員が、各教科・各科目の指導方法、ICT 教育、地域連携の学びなど、新たな価値のある学びを継続して研修する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	●<u>資質・能力並びに 3 年間計画する教育内容を踏まえ、入学時には次のような生徒を求める。</u> ① 中学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、一層の学力を身に付けようとする生徒。

別紙様式 1 (高)

	② 主体的に学習する態度や習慣を身につけ、進路実現を目指し、日々努力する生徒。 ③ 学校内外の様々な活動（部活動、芸術活動、ボランティア活動）等に積極的に取り組み、実践し、表現しようとする生徒。 ④ 人への思いやりを大切にするという精神を尊重しようとする生徒。 ⑤ 本校で身に付けた資質・能力を発揮して、世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒。
--	--

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒による生活状況調査結果より、約 70%が「授業がよく理解できる」「ほぼ理解できる」、約 20%の生徒が「生徒の成績に満足している」と答え、昨年より 8 ポイント増加した。通常授業に加え、以前から実践している少人数授業や学校設定科目による基礎力向上のためのモジュール授業などにより、一定の効果は上がっている。また、「もっと（成績が）上がるように努力している」生徒が約 30%いる一方で、平日の家庭学習時間では「全くやらない」との回答が 60%にのぼっている。学習の妨げの一番の理由として、全体の 41%の生徒が「勉強の方法が分からない」と挙げている。	主体的・対話的で深い学びを実現するため、教員相互の授業参観等を積極的に行い、学校全体で授業力向上を図り授業改善に努める。 以前から実践してきた少人数指導やチームティーチングによるモジュール授業等のきめ細かな指導を通して学習意欲を喚起し、さらなる授業改善、学習内容の定着を促す取り組み、家庭学習の習慣化を図るための方策が求められる。 また、昨年度より ICT 機器の導入が加速しており、授業において段階的に ICT の活用の頻度を上げていく必要があるだろう。
進路指導	就職については、コロナ禍という条件下ではあったが、粘り強い指導の下 98.6%となった。女子の受験企業決定はやや苦戦したが、焦らず丁寧な指導の結果、高い内定率となった。進学では国際医療福祉大学などをはじめ、推薦入試合格者が多かったが、一般入試においても流通経済大や秀明大、阪南大に合格した。学科別にみると、教育学関係や医療関係の進学への進学が見られ、生徒それぞれが希望の道を決めることができた。 学習面では定期考査や外部試験等の際の事前事後指導が定着しつつあり、振り返り活動を通して好成績を収める生徒が増加した。	各学年で段階的に進路ガイダンス等を設定し、啓発的・体験的な活動を一層充実させ、勤労観・職業観の育成を図る。 公務員試験の受験者に対する支援を組織的に行えるよう、支援体制を強化する。就職試験については、学科試験を課す企業の増加に合わせ、基礎学力の定着と応用問題にも対応できる力を養う。連携する動画配信等をはじめ、自学自習のスタイル確立につなげる。また資格検定への受検を促し、課外等の指導を取り入れ合格率アップにつなげたい。

別紙様式 1 (高)

特別活動	コロナ禍において多くの面で変革していく時期に来ている。部活動は1年生1学期全員加入制も7年目を迎えるが、多くの運動部が少人数となり、取り組み方を考える必要がある。各種委員会や生徒会では校内外で積極的に活動しており、生徒の自己有用感の向上に大きく貢献している。昨年1年間中止した小学校挨拶運動は一旦終了とする。今後はできる範囲で地域との連携を視野に入れた新たな活動を模索していきたい。	部活動の加入率・定着率の向上が重要課題ではあるが、現在18ある部活動の削減も考えていく必要がある。神栖市との包括連携協定をもとに地域との連携を図り、校外での活動をさらに充実させたい。これからも各種委員会等を含む特別活動全般を通して母校愛や協働する喜びを体得させ、学校を皆で活性化させる気運を一層高めたい。本校の「部活動のあり方に関する活動方針」に則った適正な部活動運営を推進していきたい。
生徒指導	毎日の登校指導・巡回指導の成果が現れ、全体として落ち着いている。ここ数年、特別指導件数は10件程度で推移している。組織的・継続的な指導が功を奏し、欠席や遅刻、服装・頭髪などはかなり改善され、各学年5%程度にとどまっている。生活状況調査においての生徒の学校生活に対する設問「満足している」「ほぼ満足している」との回答は約70%である。	予防的生徒指導に努め、あらゆる機会を活用する生徒指導を目指す。HR・学年の指導を軸に家庭やSC等との連携を密にして基本的生活習慣の確立と規範意識を醸成するとともに、清掃等校内環境の整備を行い「安全・安心」な学校づくりをすすめていく必要がある。また、学習との連動で目的意識をもって主体的に学校生活を送れるよう生徒一人一人の自尊感情を高揚させたい。 交通事故の未然防止に努めることも継続して必要である。また、地域、保護者と連携して、適切なアルバイトの指導を行う必要がある。
働き方改革	学年4学級の小規模校であることに加え、若手教員が多数在籍しているため、授業準備、教材作成、部活指導に時間を取られる傾向があり、時間外勤務が改善傾向にあるが常態化している。	業務内容の見直しや教材の共有化など、校務の効率化を図り、勤務時間の自己管理を通して、ワークライフバランスを確立する必要がある。

4 中期的目標

- 1 主体的・対話的で深い学びを通して生徒一人一人の能力を引き出すとともに、常に学習指導の工夫改善に努める。
- 2 自制心、向上心、共感性を育てることを通して基本的生活習慣を確立し、教育活動全体を通じて豊かな教育を推進する。
- 3 「神栖高校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの防止・早期発見・早期解消に取り組むとともに、誰もが良好な人間関係のもと安心して学べる学級・学校づくりに努める。

別紙様式 1 (高)

- 4 地域・家庭・中学校との連携強化に努め、それぞれの役割を明確にし、協力体制を構築するとともに、次代を担う地域の人材を育成していくために「開かれた学校づくり」を推進する。
- 5 働き方改革を推進し、校務の効率化と質の向上に向け、効率的な教育活動を具現化する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 基礎学力の向上と授業の質の向上	①家庭学習（オンライン学習等を含む）の定着及び進学課外の充実 ②学習・進路に対する明確な目標設定と上位級への挑戦を含む資格取得の奨励 ③インクルーシブな学習方法習得及び進学指導体制の構築
(2) 基本的生活習慣の定着と安全指導の充実	④時間遵守の意識付けと規律正しい生活習慣の獲得 ⑤SNS 等インターネットの安全な活用法の習得といじめの防止並びに早期発見・早期解消 ⑥交通事故の未然防止（自転車の安全指導・交通マナー指導）
(3) 自ら課題を発見する力の育成	⑦チャレンジプロジェクト計画案の確実な実施 ⑧探究活動 ICT 機器を活用した授業実践と積極的な研修
(4) 広報活動の更なる充実	⑩学校 HP の更なる充実⇒学校活動が見えやすい内容と学校からの連絡充実 ⑪携帯連絡網（マ・メール）の効果的な活用（学校からのお知らせ、緊急対応、各種行事、事務室関係、PTA） ⑫校内掲示の充実及び電子機器の積極的活用
(5) 外部機関との連携	⑬神栖市との包括連携協定の更なる充実（合同スクールバス運行、キャリア教育支援金給付、神栖市各課や市内県立3校との共同開催事業） ⑭キャリア・パスポートの活用導入（民間企業とのコラボ事業）
(6) 働き方改革の推進	⑮定時退勤日、完全退勤時間の設定 ⑯資料、情報のネットワーク上での共有化及びペーパーレス化の推進